

## 財務報告実務検定【連結実務演習編】創設及び本書発刊に寄せて

2000年に、法定開示書類の組替・計算・転記・照合を自動処理するシステムを世に出してから15年になる。この間、多くの経理の方とお会いし、意見交換を行ってきた。そこでわかった上場会社の経理部門の共通の悩みが、「経理スタッフの開示実務能力の育成」だ。

その背景の一つには、人事異動の活発化がある。経営層育成のためのローテーションもあるし、海外子会社に赴任するケースも増えている。また、開示実務に精通した人材は希少価値が高いため、転職マーケットでも引く手あまたであり、開示実務のキーマンが突然転職してしまうケースも少なくない。

こんな話も耳にした。

「開示実務のキーマンが海外子会社に急遽赴任になり、補充で別の人が入ったのですが、その人が全く開示実務を知らず、兼務の品質を保つのが困難でした。現場は大混乱に陥りました。」

もちろん、多くの上場会社の経理部門は、「開示実務のスキルを向上させる教育」の重要性は理解している。しかし、「なかなか社内で教育するのは難しい」という意見が多い。

経理責任者の方から「何か実践的な開示実務教育を支援してくれる仕組みはないんですか？」と聞かれたため、私は逆にこう質問をした。

「例えば簿記検定のように開示実務検定のようなものがあったらニーズはありますか？」

すると、「もし、そういうものがあるなら、絶対経理スタッフに受けさせますよ」という答えが返ってきた。

このようなニーズは会計専門学校でも認識されているようだ。会計専門学校の責任者の方がこんな話をしていた。

「簿記検定に合格しても、上場会社の経理実務との間には大きな溝があります。それは、連結業務と開示業務です。」

また、別の経理の方からはこんな意見も聞いた。

「開示実務は連結中心なので、連結業務と開示業務をつなげた試験のようなものができたらよいと思いますね。」

もう一つ、上場会社の経理部門にとって大きな課題がXBRLへの対応である。有価証券報告書が全文XBRL化されたことで、XBRLにも細心の注意を払わなければならなくなりましたが、上場会社の経理部門はその対応に頭を悩ませている。

こんな意見も耳にした。

「訂正報告を出さないようにするには、本来はXBRLの内容をチェックしなければならないのはわかっているのですが、会計業務ではないだけにどうしても“アレルギー”があり、今のところ印刷会社に丸投げしている状態です。社内にチェック体制がないのが問題なんですよ。」

上記のような経理現場の声を踏まえ、従来の財務報告実務検定を経理の方にとってより

有効なものとするべく、内部で検討を重ねた。議論を重ねた結果たどりついた結論が、連結財務諸表の作成・開示実務にフォーカスした、「演習型」の財務報告実務検定【連結実務演習編】の開発であった。本検定は、「連結業務からXBRLを含む開示業務までの一連の流れを経理スタッフに学習させたい」と考えている経理部門の皆様にとって、有効な教育ツールとなると考えている。本検定をご活用いただくことが、経理スタッフのスキルアップの一助となれば幸いである。

また、本書及び本検定については今後も継続的、かつ個別に受験者の声をお聞きし、より実践的で役に立つテキスト及び試験内容にブラッシュ・アップしていきたいと考えているので、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただきたい。

本書のとりまとめにあたり、東陽監査法人の公認会計士 石見隆之様に多大なご尽力をいただいた。また、本書の発刊にあたっては、㈱中央経済社会計編集部次長の飯田宣彦様、日本IPO実務検定協会・事務局長の原田清吾様、同事務局で公認会計士の藤元拓志様に多くのご支援をいただいた。ここに厚く御礼申し上げたい。

2015年11月

財務報告実務検定【連結実務演習編】試験委員長  
宝印刷グループ 株式会社スリー・シー・コンサルティング  
代表取締役 公認会計士 児玉 厚

## 本書の特長と使い方

### 【本書の特徴】

本書は、「財務報告実務検定【連結実務編】」に合格するための学習を通じて、連結業務、開示業務の品質向上に資することを目的としています。

本書の特長は以下のとおりです。

(1)①連結業務、②開示業務及び③XBRL業務までをカバーしております。

本書の作成にあたっては、各分野の実務に精通した最高のスタッフを人選し、作業にあたっていただきました。

連結業務 : 株式会社ラウレア代表取締役 公認会計士 飯塚幸子

開示業務 : 株式会社スリー・シー・コンサルティング 高橋幹夫

XBRL 業務：宝印刷株式会社 塩崎 直

- (2)範囲は「連結財務諸表」関係に限定しています。
  - (3)海外子会社を含めた連結決算を前提としています。
  - (4)連結包括利益計算書を含んでいます。
  - (5)一貫した一つの設例・数値モデルを前提に演習問題・解説を作成しています。
  - (6)連結数値が変わると関連する開示書類の連結数値も変わるため、
    - 1. 連結損益計算書関係
    - 2. 連結貸借対照表関係
    - 3. 連結株主資本等変動計算書関係
    - 4. 連結キャッシュ・フロー計算書関係
    - 5. 連結包括利益計算書関係
- の区別に①連結会計問題及び②開示書類作成問題を掲載し、解説しています。

#### 【本書の使い方】

本書は、大きく分けると、連結決算及び連結開示の全体像やスケジュールを学ぶパート（第1章 概要）、連結決算及び連結開示の詳細を学ぶパート（第2章 連結損益計算書関係～第6章 連結包括利益計算書関係）、XBRLについて学ぶパート（第7章 XBRL関係）の3つのパートから構成されています。

その上で、各パートは、実務における具体的なシーンをイメージしていただくため、また、知識の効率的な定着のためにはインプットとアウトプットの連動が重要であるとの考えに基づき、問題（例題、基礎演習問題、応用問題）を数多く盛り込み、それを解説する形で展開されています。

基本的には、第1章から順に学習するようにしてください。ただし、「応用演習問題」には発展的な論点も含まれているため、初学者は応用問題を飛ばして一通り本書を読破してから、応用演習問題にチャレンジしていただいても結構です。

演習問題の解説には、問題を解くカギを **ポイント**として、実務上留意したい点は **注意!!** として表示しています。本検定試験に合格し、実務を担っていくための重要論点をここで押さえるようにしてください。

- (2)範囲は「連結財務諸表関係」に限定すること
- (3)海外子会社を含めた連結決算であること
- (4)連結包括利益計算書を含むこと
- (5)一つの設例数値モデルを前提に演習問題・解説が作られていること

(6)連結数値が変わると、開示書類の関連する連結数値も変わって行くので、  
1. 連結損益計算書関係、2. 連結貸借対照表関係、3. 連結株主資本等変動計算書  
関係、4. 連結キャッシュ・フロー計算書関係及び5. 連結包括利益計算書関係  
に区分し、それぞれの区分別に①連結会計問題及び②開示書類作成問題が設定され、  
解説されていること

(7)本書の作成にあたっては、実務に精通した最高のスタッフを人選し、作業に  
あたっていただいたこと

①連結業務：公認会計士 飯塚 幸子

②開示業務：宝印刷グループ 株式会社スリー・シー・コンサルティング 高橋 幹夫

③XBRL 業務：宝印刷株式会社 XBRL 推進室長 塩崎 直

#### 4.今後の取組み

継続的に、個別に受験者のお声を聞き、より実践的で役に立つテキスト及び  
試験内容にブラッシュ・アップして参りたいと考えております。

ご賛同いただける様でしたら、財務報告検定【基礎演習版】へのご参加  
何卒よろしくお願いいたします。

最後に、本書の発刊にあたり、株式会社中央経済社 会計編集部 編集次長  
飯田 宣彦 様に多大なご尽力いただきました。厚く御礼申し上げます。

また、IPO実務検定協会事務局の 事務局長 原田 清吾 様、公認会計士  
藤元 拓志 様にも多方面に亘りご支援いただきました。

厚く御礼申し上げます。

2015年12月

宝印刷グループ 株式会社スリー・シー・コンサルティング  
代表取締役 公認会計士 児玉 厚

中央経済社刊

# 財務報告実務検定【連結実務演習編】対応 連結決算・開示実務演習テキスト

宝印刷株式会社 [監修]

一般社団法人日本IPO実務検定協会/株式会社スリー・シー・コンサルティング [編]  
A5判・並製・364頁/ISBN978-4-502-14911-5/定価4,104円(税込)

## 【本書の内容】

- 財務報告実務検定【連結実務演習編】合格のための学習を通じて、連結業務からXBRLを含む開示業務までの総合的な実務スキルが身につく一冊です。
- 開示演習をベースに解説を加えていく形式を採っているため、実務の具体的な場면을イメージしながら学習を進めることができます。(海外子会社の外貨換算含む)

## 【本書の主な目次】

第1章 概要	第5章 連結キャッシュ・フロー計算書関係
第2章 連結損益計算書関係	第6章 連結包括利益計算書関係
第3章 連結貸借対照表関係	第7章 XBRL関係
第4章 連結株主資本等変動計算書関係	用語集



## 【関連記事のご紹介】

「経理部 決算でも残業ゼロ」

・・・略・・・

漠然と知識を習得しておくようにとその人任せにせず、どの程度の知識があればよいかの目安として外部の検定試験を利用し、その知識を見える化し、職制に応じたスコアの獲得を義務化した。具体的には、日本CFO協会主催のFASS検定と日本IPO実務検定協会主催の財務報告実務検定を利用している。ここでのスコアを参考に自分のスキルを確認し、弱い部分を補っていくようにしている。

月間「企業会計」経理財務最前線  
(中央経済社) 2016年3月号より  
(関根利光 東亜ディーケーケー株式会社  
経理部経理課 課長補佐)

連結決算+開示業務+XBRL

財務報告実務検定の新検定「連結実務演習編」がスタートしました！

【連結実務演習編】は、連結財務諸表作成に必要な基礎資料の作成から連結精算表を経て連結財務諸表が作成されるまでのデータの流れや手順、開示のルールを問う試験です。金商法開示では必須知識となる XBRL の実務まで出題範囲に含まれているのも大きな特長です。

＜出題範囲＞ ※「連結決算」から3～5問、「連結開示」から3～5問、「XBRL」から1～2問出題されます。

分野	項目	主な出題内容
連結決算	連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書	資本連結、のれん(在外子会社を含む)、会社間取引及び債権債務の相殺消去、未実現損益の取扱い(たな卸資産のみ)、貸倒引当金の取扱い、持分法、税効果会計、在外子会社の財務諸表の換算、退職給付引当金の組替
	連結キャッシュ・フロー計算書	間接法かつ簡便法による連結キャッシュ・フロー計算書の作成(在外子会社を含む)
	連結包括利益計算書	当期発生、組替調整及び税効果(持分法適用会社の取扱いを含む)
連結開示	組替表	連結精算表から開示科目への組替、重要性基準(前期における表示の組替を含む)
	開示上の計算	1株当たり金額及び各種財務比率の算定
	有価証券報告書等の作成	基本財務諸表、ハイライト情報、業績等に関する説明及び関連書類の作成(書類間の照合を含む)
XBRL	XBRL のポイント	経理の実務と XBRL、会計規則と XBRL、共通のルールと異なる会計規則・運用ルール、タクソノミとインスタンス、表計算ソフトと XBRL
	タクソノミを構成する仕組み	リンクベース、インライン XBRL
	EDINET 固有の運用ルール	勘定科目名称(名称リンク)の上書き、「該当なし」要素

＜試験概要＞

試験時間： 90分

出題形式： 選択式問題及び計算問題

合格ライン： 70点以上(100点満点)

受験料： 1万2千円(財務報告実務検定会員は1万円) ※金額は税抜き